



# 【第46期初級陸曹特技課程「准看護師」卒業式】

令和5年3月2日

3月2日（木）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 野澤1佐）は、北部方面総監部から医務官小林1佐、人事部人事課長 村上1佐、防衛部訓練課長代理 堀3佐のご臨席を賜り、第46期初級陸曹特技課程「准看護師」23名（男性13名、女性10名）の卒業式を挙行了。

卒業にあたり病院長（鈴木陸将）は、「昨年12月に戦略3文書が閣議決定され、自衛隊衛生においては、隊員の壮健性の維持に加え、有事における第一線から最終後送先病院までのシームレスな医療・後送態勢を構築し、隊員の生命・身体を救うことがより重視された。我々衛生科隊員は、隊員が負傷したならば、いつ何時、何処においても必ず救うことが最も重要な使命である。その時に、必ず仲間を助けるという強い執念と的確な知識・技術を使って、最善の行動が出来なくてはならない。部隊において第一線救護を中心となって担う、衛生救護陸曹としてのスタートである。常に、この役割を全うするという透徹した「使命感」と准看護師の資格を持ったプロフェッショナルであるという「気概」を持って日々の任務に邁進し、「日々の努力」を地道に積み重ねて自分自身の能力向上を図り、常にあるべき姿を求めて「挑戦」し続け、仲間信頼される衛生救護陸曹に成長してもらいたい。」と訓示した。

准看護学院長（野澤1佐）は、「諸官がここを卒業した後は、これまでの学生という守られた立場から、一人の衛生救護陸曹として部隊の隊員に頼られる立場となるため、自らの言動に対して責任を持たなければならない。平時有事を問わず、諸官の現場での判断と対応がその隊員の生死に関わる場合もあることを肝銘し、医療のプロフェッショナルであるという自覚と、衛生救護陸曹としての強い使命感と責任感を持って、これからも真摯に職務に励むようにしてもらいたい。」と式辞を述べた。

北部方面総監部医務官（小林1佐）は、「皆がここで学んだ知識と技術、さらに情熱や愛情がそのまま隊員の生死に直結する可能性があり、その自覚と覚悟をもって、これまで学んだ知識と技術をより高く磨いてもらいたい。」と祝辞を述べられた。

学生代表（藤井3曹）は、答辞において、本教育間病院長をはじめとするお世話になった病院職員への感謝を申し述べるとともに、「これからの勤務への抱負として、自衛隊札幌病院准看護学院の伝統に誇りを持ち、衛生救護陸曹としてより一層の努力と研鑽を続けて行きます。」と誓い、多くの病院職員に見送られて、北は名寄から南は春日井までそれぞれの任地へ旅立った。

なお、方面総監賞を古見3曹、病院長賞を成瀬3曹、学院長賞を藤井3曹と小野塚3曹がそれぞれ受賞した。



思いを胸に卒業式に臨む学生



病院長 訓示



卒業証書授与



准看護学院長 式辞



北部方面総監部医務官 祝辞



集合写真